

佐賀市の木村情報技術

高専の半導体教育を支援

佐賀市のIT企業「木村情報技術」（木村隆夫社長）は、高等専門学校（高専）での半導体教育を支援するプラットフォームを開発した。全国の高専生が回路設計などの講義を動画で学ぶことができ、教員はプラットフォーム上で課題を与えることも可能で採点や管理もしやすい。すでに10以上の高専で利用されており、急がれる半導体人材の育成をデジタルの力で支える。

半導体については、受託生産の世界大手・台湾積体電路製造（TSMC）が熊本県で量産を進めるなど製造面は拡大している。一方で日本で

は回路設計などを手がける人材が不足し、国も関連人材の育成に注力。こうした中、有明工業高等専門学校（大牟田市）では4月、回路設計を学ぶ「サーキットデザイン教育センター」が設立された。

木村情報技術は2021年から同高専と共同研究する中、同センターを支援したいと、教育プラットフォーム「COGAKUSEE（コウガクシー）」を開発、今年1月に実用化した。

コウガクシーには、回路設計専門ソフトの使い方などの講義を収録した動画を掲載し、高専生が無料で学ぶことができる。教員は講義の動画に付随した選択式や作文の課題を課すことができ、一部は自動採点機能で業務を手助けする。中でも、学生が講義内

「コウガクシー」の画面イメージ。有明高専と連携して開発に携わった合田貴彦さん（右）と重丸建吾さん（左）佐賀市の木村情報技術



専用プラットフォーム開発、人材育成の力に

容をまとめてプレゼンテーション動画を作成する課題は、同社の独自技術を利用し教員からの評価も高いという。

同高専と連携して開発に携わった同社イノベーション本部の合田貴彦さん（27）は「先生が便利と思ったら学生への普及が広がるので、使いやすい点を大事にした」と話す。

コウガクシーは同センター長の石川洋平氏が監修した。石川氏の研究室で学び今春に木村情報技術に入社した同本部の重丸建吾さん（21）は「有明高専でしか学べなかった回路の設計が、コウガクシーを使うことで全国どこでも設計できるようになるのが強み」と語る。

今後は他の高専の教育内容も掲載して充実を図る一方、半導体関連企業にも参画してもらおう考えた。企業情報や専門的なコンテンツを提供してもらい、将来的には高専生の就職にもつなげる。合田さんは「コウガクシーによって半導体人材の裾野が広がり、企業へ輩出することで半導体産業を盛り上げていけたら」と意気込む。（北島郁男）

